

テーマ：ICT 活用

対象：小学校3年生～6年生

主催：東広島市小谷地域センター

わくわく！サイエンス プログラミング体験教室

地域を学ぶ

○

地域でつながる

○

地域に還す

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
5月23日(火) 13:30～13:50	東広島市役所	○近畿大学の担当者とプログラムの内容等について打合せ ・開催日時、活動内容・時間、2回シリーズで課題解決を行うことなどを確認した。
10月14日(土) 13:30～15:30	小谷地域センター	○「MESH」を使ってプログラミング体験 ・「MESH」の使い方を知る。 ・条件を整理し、光る、音を出す、動かすなどのプログラミング体験をする。 ・次回に向けて、学校生活の中で困ったことを考える。
10月21日(土) 13:30～15:30	小谷地域センター	○身の回りの困ったことを「MESH」を使って解決 ・身の回りの困ったことを解決する方法を考える。 ・「MESH」を使ったプログラミングで課題を解決する。 ・作品発表会をし、交流する。



対象

小学校3年生～6年生

経費

無料

連携先

近畿大学工学部情報学科

問合せ先

東広島市小谷地域センター

〒739-2121 東広島市高屋町小谷 5560 番地

電話：082-434-3758

ファクシミリ：082-434-3758

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 家庭、学校、地域が連携し地域ぐるみで青少年の育成を図り、主体性と創造性を持つ子供を育む。
- 子供たちに理系イノベーションを体験する機会を提供する。

3 学習目標

- プログラミング体験を通して情報技術について学ぶ。
- プログラミングの技術を活用して、生活の中にある課題を解決することができる。
- プログラミング的思考で生活の中の課題を解決していこうとする意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 専門的な分野になるので、連携先と十分に連絡を取り、必要な機材等の確認をする。

5 留意点

- プログラミングの体験だけにならないよう、生活の中の課題解決につなげる視点を入れる。
- 準備物が多いので、当日の会場準備は時間に余裕をもって行う。
- 今回のプログラムでは、最終的に作品の発表会を行うことになっていたため、保護者への参観の案内を行った。

6 成果

- 市の広報誌を通じても募集したので、他地域から参加し、初めて小谷地域センターを利用する方もいた。小谷地域センターのことを知ってもらったり、興味を持ってもらったりすることができた。
- 指導に当たる学生が十分に配置されており、個別に進度を調整することができた。子供の実態に合った学習をすることができたので、満足度が高かった。
- プログラミングと生活の中の課題をつなげることで、プログラミングをより身近に感じることができた。

7 課題

- 他の地域から参加していた子供もいたため、子供同士の交流ができたらよかった。

8 今後に向けて

- 地域住民だけでなく広く参加者を募りたい場合は、広報誌を活用するなど、募集の仕方を工夫する。
- 大学と連携して行う事業（キャンプ等）を充実させる。
- 今回は市の事業を活用して、少ない経費で講座を実施することができた。今後も予算を考慮して、工夫しながら講座を実施していく。